

『主に喜ばれるために』 コリント人への手紙第二5章1～10節 2016.4.10(礼拝説教より)

『そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。』

Ⅱコリント5:9

◆パウロは、この肉体の死を越えて、なお私たちが存在することを告げる。『…この幕屋を脱ぎ…天からの住まいを着…。そのことによって、死ぬべきものがいのちにのまれる…(5:4)。』と。幕屋とは私たちの肉体のこと、天からの住まいとは、永遠の復活の体のこと。私たちは、この希望を持って命ある限り全力で神と人のために生きる。しかし「はい、あなたの人生はここまでだよ！」と神による終業ベルが鳴れば、人生という教室を喜んで飛び出し、永遠の安息、神の園庭（パラダイス）へ向かい、人生の疲れを癒していただく！

◆生涯に何千という讚美歌の詩を書いたファニー・クロスビーは、医療ミスで失明するも、創り主の特別なご計画があることを知り、心の目で神を見る幸せを実感した！しかし彼女の最高の希望は、生涯を終え、御国に着き、目が開かれた時、最初に見るイエス様の笑顔！私たちも、初めて会って主とわかるのは、その手の平に釘の跡を見るから！

◆その御国の希望の確信はどこからくるのか？『…神は、その保証として御霊を下さいました。そういうわけで、私たちはいつも心強いのです(5～6 節)』。日本人の死後観は何でもありで、本当に確かなものがどこにも無い！私たちは、あの歴史上のクリスマス(救い主の誕生)、十字架(罪の身代りの死)、そしてイースター(復活)を聞き、その活けるキリストを「私の救い主」として信じた時、聖霊を心に受け、その内に住まれる聖霊によって、死ぬべき体が天国で永遠に生かされることを確信する(ローマ 8:11)。

◆パウロは、クリスチャンは全員「さばきの座」に立つと言う(10 節)。しかしその「さばき(ペーマ)」は、古代ギリシャ(オリンピック)の「表彰台」の意も。イエス様を救い主として信じた者には裁きも地獄もなく「報い」があるのみ！主は何に報いてくださるのか？「主が喜ばれること(9 節)」に対して！では主は何を喜ばれる？マタイ 25:31～40 に、この世の小さく乏しく弱い方々に対する私たちの愛のわざを、何よりも喜ばれる主の御旨が語られる。しかも、その業をした誰もがその自覚がなかった！愛され、赦された者から溢れ出る自然で普通で当然の「愛」こそ報いを受ける！

★御国の報いを仰ぎつつ、やがて召されるその日まで、心を込めて、神と人に喜ばれる者として仕えたい！